

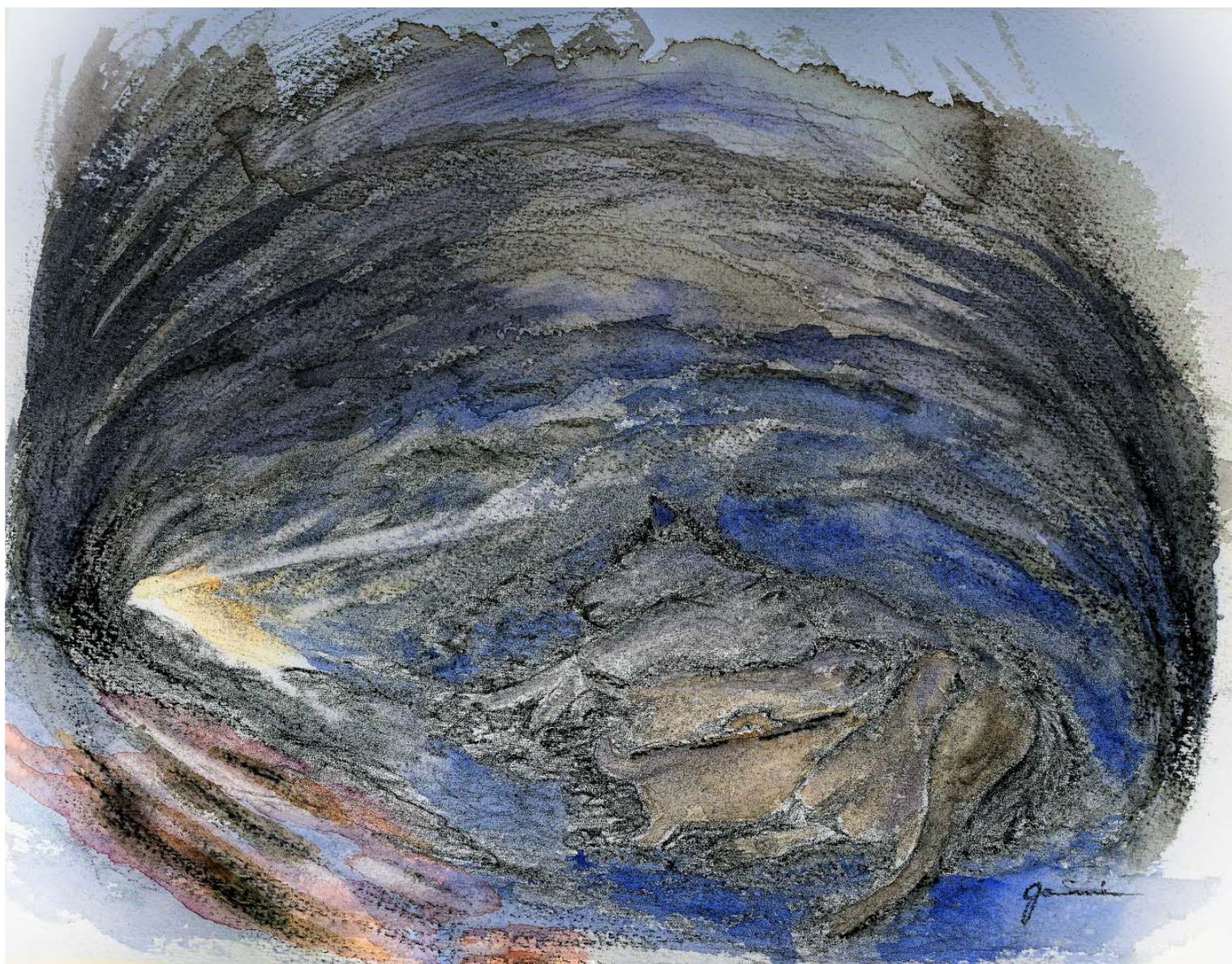
NPO 法人



2017年3月10日

第33号

Jomon Shiba



特定非営利活動法人

縄文柴犬研究センター

縄文柴犬研究と JSRC (歴史的な視点からの試み) 4	五味靖嘉	2
パネル発表報告	土井鐵徳	10
シバの散歩道(32)	根深 誠	14
総会・理事会のご案内		17
おたよりコーナー	☆福島県 一ノ澤義雄	18
	☆東京都 中山康子	19
	☆良子近況 21 富山県 竹内誠一	20
	☆父犬になった! 和歌山県 土山仁美	20
	☆ML 交信から	21
	岩手県・佐々木俊幸、秋田県・五味靖嘉	
	岩手県・東淳樹、北海道・橘宏	
	☆晩秋のキューとの散歩 石川県 黒梅 明	23
	☆香川県 大岡早苗、和歌山県 栗生隆行	23
	☆岩手県 畠中秀平、和歌山 土山仁美	24
群馬県川場村交流会のご案内		25
事務所報告		
☆新入会 ☆会費 ☆仔犬登録 ☆寄贈		26

総会・理事会案内と交流会案内について

総会・理事会の出欠ハガキを同封しています。必ずご返信ください。NPO法人の規定に基づき、総会の成立に参加者数と委任状数の記載は欠かせません。欠席される場合でも委任状の返信をお願いします。

交流会の関連で愛犬のしおりと参加申込書を同封しています。参加できない場合でも愛犬のしおりの各項を記入してご返送ください。会誌で愛犬を紹介させていただく場合がございます。皆さんのお便りをお待ちしています。

◆次号会誌 34 号発行は 2017 年 6 月 10 日予定。原稿の締め切りは 2017 年 4 月 20 日です。

☆会誌の原稿は、編集事務局(〒920-1302 金沢市末町 14-60-2 黒梅明 popolo117@fork.ocn.ne.jp)、もしくは会事務所に郵送、又はメールでご送信ください。ぜひ、愛犬の写真も添えてください。

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター

会事務所：〒014-0073 秋田県大仙市内小友字堂ノ前 119 番地 5 ☎0187-68-2976

<http://www.jomon-shiba.com/> encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp

郵便振替口座： 02280-2-106951

パネル発表報告

「東北の野生動物管理を考える」第 3 回東北野生動物管理研究交流会

(2016. 11. 12 仙台市)

JSRC 副理事長 土井鐵徳

第 3 回東北野生動物管理研究交流会が仙台市で開催されるので縄文柴犬研究センターとして、縄文柴犬の保存活動と獣害対策について発表したらどうか」と言う提案が五味副理事長からありまして、仙台市で開催されるという事もあり、地元在住の土井が参加しパネル発表してきました。

この交流集会の主たる目的は、増えすぎた鹿、熊が林業、農業へ悪影響を与えているため、その対策をどうするか、人里との境界をどうやって作っていくのかというようなことを講演やデスクッションで深め合い交流するというもので、180 人強の参加がありました。

具体的な話として、ハンターの養成をどうするか、頭数の把握と管理の手法について、行政の役割等でしたが、これという決め手が無く大変な状況にあるなど感じました。

人間がオオカミを絶滅させた事も含め、山野の破壊・縮小、自然界の循環を壊し続けた事により、自然界の反撃に遭っているのかなと思ってもしました。

私は「縄文柴犬の保存活動と害獣対策への活用事例」という題目で、縄文柴犬の原種性とその能力の説明をし、合わせて縄文柴犬を番犬として栗・アケビ農園、牛舎、畑へ活用し、被害が無くなったことと、新潟県十日町市の相澤さんの住む地域で、相澤さんが縄文柴犬と朝夕の散歩をしてから野生動物が寄りつかなくなったことを示して、縄文柴犬の保存と活用を一体的なものとして取り組むことの重要性を発表しました。

パネル発表 (ポスターセッション) には 25 テーマが出され、犬を扱ったテーマは私の出した 1 テーマだけでした。多くは鹿や熊についてですが、狼を山に放したら良いと言う発表もありました。その他は最近の IT 技術を用いた様々な観察、調査、管理等の研究、行政、コミュニティ等に関する研究でした。

当センターのパネルも他のそれに劣らず見てもらえて、その中の 10 人の方から質問を受けましたが縄文柴犬を知っている人は誰もいませんでした。出

来たばかりの当センターのリーフレットと当センター副理事長と書かれた私の名刺を持ってその方々と会話をし、概ね評価を得たと思っています。

パネル展と懇親会 (約 100 名参加) でリーフレットを 80 枚程度、私の名刺を 40 枚渡し、20 名から名刺を頂き懇談しました。団体・グループでは代表者の方だけが名刺を受け取る場合もありましたので、かなりの方々と懇談出来たと思います。

懇談した方の中で、岩手大学の東先生だけが縄文柴犬をご存じでした。その他の方々は縄文柴犬をご存じなかったのですが、興味を持って聞いてくれました。また、縄文柴犬を飼ってみたいと何人かの方から言われました。パネルを見て、また、懇談してくれた方々がこの機会に縄文柴犬に関心を持たれ、私たちの活動に協力、参加してくれる事を期待しています。

今回の研究交流会で感じたのは、「縄文柴犬の保存活動と縄文柴犬の活用」が殆ど知られていないことでした。また、縄文柴犬を暮らしに活用することにより、人里の暮らしとそこに暮らす人々を獣害から守れば、心身の健康も図れるとの思いを強く持ちました。

*次ページは、発表パネルを会誌用に編集したものです。



縄文柴犬の保存活動と害獣に対する活用例

特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター 副理事長 土井 鐵徳

1. 縄文柴犬とは



第1図 縄文柴犬の成犬のみ

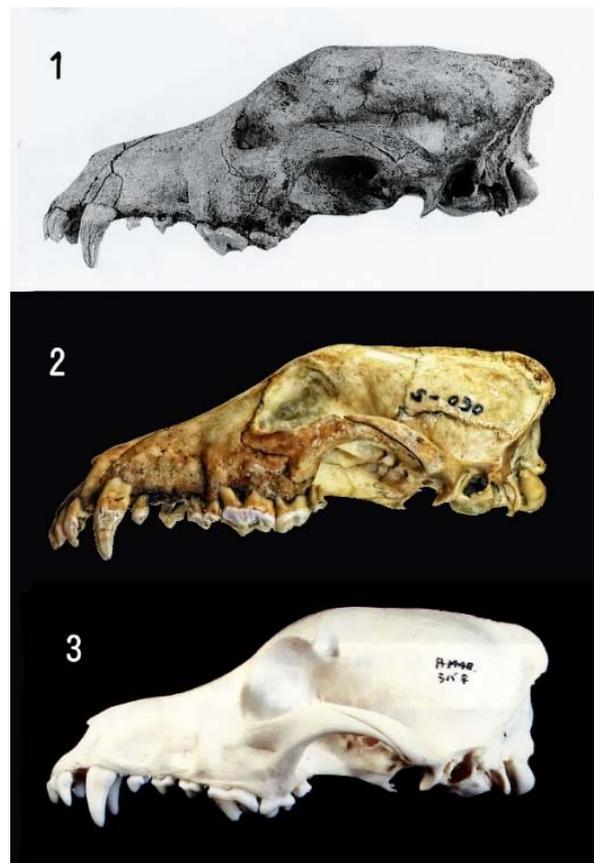
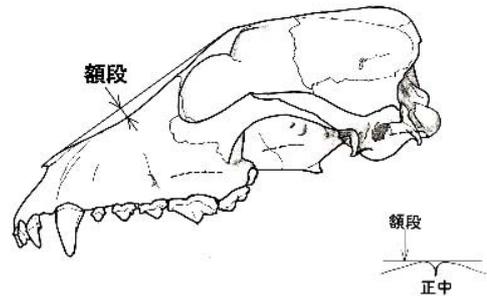
縄文柴犬(第1図)とは、「縄文人が重要な動物として同居した縄文時代の犬とは異なるのだがそれに相似し(金子 1984)、原種性がある。つまり人工的な品種改良があまりされなかった。(田名部 1989)、我が国の在来犬種に近い犬を指し、品種改良された犬とは大きく異なる」と定義されている。(五味 2012.2013)、この縄文柴犬を見て、「縄文犬を目の当たりにみる思いです(金子 1984。)」との風貌の相似性も指摘されています。(第2図)



第2図 縄文時代の犬のレプリカ (科学博物館)

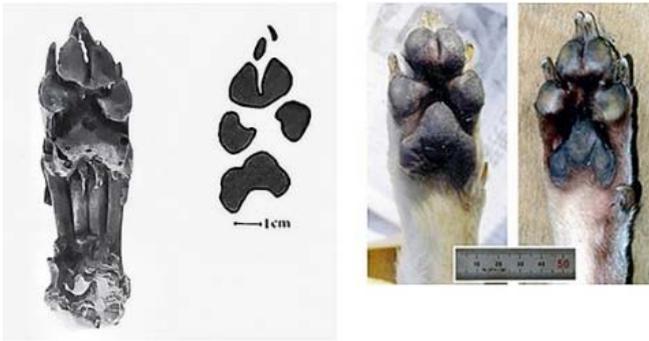
縄文時代のイヌの形態の一部分を述べるなら「小型の犬で額が広く後頭部が発達し、ストップが浅く面長で、口吻部は太く頑丈である(市原 1984)」[ほとんど縄文時代のイヌは一系統であろう。縄文時代の犬の平均的な頭蓋骨最大長さは、オスが 169 mm、

メスが 157 mmほどである(重原 2007)」ということがいえます。このストップの深さは犬の系統を調べる重要な標識になり、現在の日本犬は深いものが多い。韓国の珍島犬・済州島犬も深い。(田名部 1989)。(第3図)



第3図 額段と頭骨の比較

- 1. 縄文時代の頭蓋
- 2. 縄文柴犬の頭蓋
- 3. 一般のシバイヌの頭蓋



第4図 左：ニホンオオカミの前肢
右：最近の縄文柴犬の前肢

つまり、顔の表情や犬歯の長さなど現在の犬とは大きく異なり、音もなく俊敏に走るなどの特徴のほか、イヌの祖先であるオオカミの蹠(あしうら)(小原 1990)である第三指と第四指の基部が融合している(第4図)が、縄文柴犬とも相似しており、わが国の急峻な山岳地帯や岩盤地帯に適応したのではないかと(五味 2012)なども考えられます。

性格は主人には従順で良く服従し、警戒心が強く、主人を守り、見知らぬものに対して威嚇します。また、大型の野生動物にもひるまず対峙する能力があります。

世界に 500 種ともいわれる犬の中でも、およそ 1 万年前の原型に近い形態を残している貴重な存在であり、その保存活動は極めて重要な課題となっています。特定非営利活動法人縄文柴犬研究センターは縄文柴犬の保存活動と研究を行っています。

2. 縄文柴犬の活用事例

この縄文柴犬を試験的に秋田県仙北郡仙北市西木村(a:橘さん)、岩手県花巻市東和町(b:菅野さん、c:小原さん)が導入しました。その内容と結果を記します。

① a : の例

a : ではクマがそれまでは収穫する頃のアケビや栗を狙って、シーズンになると数回出没し枝を折るなどの被害が続きました。しかし、2頭の縄文柴犬の導入後9年を経過した現在、クマの足跡は確認できるものの、アケビや栗の被害は皆無となり、着実な成果が見えました。実験下の縄文柴犬は1日数時間、飼い主が作業中は農園を中心として半径 200~500m程度の行動範囲で活動します。また、通常は犬の走行できる約 50mの長さのワイヤーを張り、そこに滑車を取り付け、左右に 10m程移動できるロープを繋ぎその行動範囲に寝小屋が設置してあります(第5図)。もう1頭は、前記の 50mほど離れて同様にワイヤーを張り、犬を繋いでいます(第6図)。



第5図 寝小屋の前の縄文柴犬



第6図 威嚇している縄文柴犬

実験のアケビと栗農園は山すその斜面、約 2 万²の面積があり、クマの出没する山側は国有林です。その国有林と農園をはさんで反対側の谷は田圃や畑の私有地で、人家までは数km離れている環境にあり、犬が人家や家畜を襲う様な環境・条件下ではありません。

② b : 、 c : の例

b : では牛の飼料を目当てに夜な夜なやってきていたのが、実験を開始してから8年間、縄文柴犬がいるときは被害が無く、夜に犬が牛舎から 250m離れた自宅に帰ると出没するという傾向も明らかになりました。そのために、翌朝まで長さ 3~4m程のロープに係留し番犬の役目をします。この8年間縄文柴犬が牛舎に係留されているときは、一度もクマの被害が発生していません。c : では野菜畑の作物が野生動物の被害を受けていましたが一度も野生動物の被害はありません。

③ a : 、 b : 、 c : の結果の考察

実験では、縄文柴犬がその環境に棲みついたとき、シカやツキノワグマは、縄文柴犬のテリトリーを警戒し、周辺部を徘徊し、あるいは侵入できないことが判明しました。特に臭覚の優れたツキノワグマは、縄文柴犬の臭い(尿や糞等)に反応し、それま

で栗や牛の飼料目当てに夜な夜なやってきていたのが、実験を開始してからは縄文柴犬がいるときは被害が無いと言う事が明白になりました。このような結果を残している縄文柴犬の番犬としての能力を引き出すためには、育て方に注意が必要であり。まず「飼い主（または移住する人たち）以外からは餌を（ものを）与えない。飼い主以外とは、一定の距離を保ちながら近寄らない」という習性が身につくように育てます。そのような幼犬期の刷り込みや学習によって、人の暮らしと野生動物との「境界」を守る最適な性質を備えることとなります。また、俊敏で感覚鋭敏、原種的で野性的身体能力を備えているため、子犬期から育てられた環境を熟知しており、動作に無駄がないといえます。

3. 実験ではないが・・・ 相澤会員の報告

今年の7月16日～17日に当研究センターの交流集會を新潟県十日町市松之山小谷の三省ハウスで行いました。その地域は山間にある地域で、そこに長年住んでいる相澤さんから次の報告がありました。「縄文柴犬を飼って、部落周辺を毎日早朝と夕方の

2回散歩をしてから、部落周辺にシカが来なくなった。クマも出ていない」。その後少しして相澤さんに市から「クマ出没」の防災メールがあり、「ここから車で30分程の所にてた」との報告がありました。

獣害の根本的対策にはならないかもしれませんが、地域での人と野生動物との境界を守る対策としては、縄文柴犬を飼う事は極めて有用であると思われます。



交流会で縄文柴犬と早朝散歩をする会員達
左端が相澤さんと愛犬の三郎

縄文柴犬研究センターの活動紹介リーフレットのご案内

縄文柴犬の保存活動を取り組むJSRCの活動を紹介し、里親になってくれることをお勧めしています。下は、リーフレットの縮小版です。

A4版三つ折りで、左が外面、右が中面です。



シバの散歩道 (32)

根深 誠(文筆家・釣り師・元登山家)

例年であれば広葉樹の葉が散り、裸木の閑散とした晩秋に雪がちらつく。それが昨年は、紅葉さかりのころ雪が降り積もり、一夜にして幻想的でじつに見事な風景にさま変わりした。赤く黄色く染まった山肌が同時に白くなるのだから見応えがある。

しかし、眺めるぶんには愉しくても、リンゴ農家はてんでこ舞いしたに違いない。雪を被っても中身が凍らなければ大丈夫らしいが、かりに凍った場合、売りものにはならない。それに加えて、夏は黒星病で打撃を受けた。



収穫を迎えて色づくリンゴ畑に雪が積もる

売りものにならなくても自家用で食べるには問題ない。私がリンゴ好きであることを知っているリンゴ農家の友人知人が、例年にも増して、箱詰めにされたリンゴを届けてくれた。そのたびに私は喜ぶ。

狭い物置小屋にリンゴ箱が八箱。例年の倍の量だ。春までには、たぶん食い切れない。贈答品用とはべつに何人かの友人知人にも送った。それでも春まで食べるには十分な量だ。

私は毎食一個食べているから一日三個消費する。糖分のとり過ぎで糖尿病になるのではと注意されることもあるけれど、他人の忠言に耳を傾けることもなく何十年も毎年、収穫の秋が過ぎ、冬が来て翌年、再びリンゴが出回るころまで切らすことなく食べて続けている。底をつくころになると、さすがに鮮度が落ちて萎びてくる。が、それでも食べられないことはない。

紅葉のさなかに降雪を見るのは、春五月、サクラの咲いているとき雪が降ると同様に、数少ない、珍しい思い出として記憶に残っている。季節はずれの降雪は、季節がスイッチするときの、美しい自然の妙と言っていいだろう。

初冬にかけての白鳥の渡りにしても然り、毎年繰り返される、ダイナミックな自然の妙である。



例年になく雪の少ない年末の散歩道

降雪がはやい年は、積雪量が多いのか少ないのか、そこに何かしら因果関係があるのかどうか、気にかけていたら、年内は異常に雪が少なかった。年末に、雪ではなく雨が降ったりしたので虹が出ることもあった。

降雪だと虹は発生しないが、気温が高く雨模様だと、空中の水滴に太陽の光が屈折・反射し、太陽を背にした空に虹が出る。天気が不安定で変わりやすい秋の散歩中、雨の晴れ間の空に見かけることが多い。



朝の散歩中に見かけた虹

年の瀬も迫ったクリスマスの朝の散歩中、西の空に、虹が弧を描いてかかっていた。冬に、雪国で虹が発生するのは、すこぶる稀有な現象ではないだろうか。生まれてこの方、私の記憶でははじめてのような気がする。思わず、ここでも短歌を一首詠む。

雪国は暖冬なりて朝空に虹の輝くけふクリスマス

積雪が少ないと歩きやすいからなのか、暖かいからなのか、たぶんその両方の相乗効果だと思うが、心なしか、登校中の小学生も明るく元気だ。頬も赤

く健康色をしている。雪が降っていると、どうしてもうつむき加減に歩くことになるから顔も見えない。逆に、顔を上げて前方を見て歩いていると挨拶の言葉も出やすくなる。

シバに触っていいですか、子どもらはランドセル背に登校の道を

シバといっしょに散歩しながら、それをより愉しくするものとして、ポケットに入れて歩くカメラで撮影したり、もとよりこの文章もそうなのだが、他にもスケッチしたりなどしている。それに加えて、みそひと文字の短歌も、質はともかく七十の手習いではじめるようになった。

ボケ防止頭をひねり暇つぶしみそひと文字は古希の手習い

それにしても毎年、苛立ちを禁じえないのは、近隣の雪かき騒音だ。私にとっては目の毒、耳の毒、にもかかわらず目から耳から飛び込んでくる。手持ち無沙汰の騒音雪かきは御免蒙りたい。雪を下ろそうと屋根に上がって落下し、怪我で救急車の世話になり入院した人もいる。放っておけば自然に滑り落ちて春には消えるものを、放ってはおけずに自分が屋根から滑り落ちた。

わが家では、庭にできた雪の山にシバが上がって遊んでいる。居間から見えるので退屈しのぎにはなる。

ちかごろ、家庭用の除雪機を使う人が多くなった。庭の雪を路上に飛ばす人もいる。まるでデモンストレーションのように、もしかしたら見せびらかしているのか得意然とし、わずかばかりの敷地を何時間にも亘って、しかも毎日のように取り組んでいるのは、私から見ると異常である。雨の日も雨具を着用し、玄関先や、家の前の公道の雪かきに精を出しているのには嘖然とした。

先日、わが目を疑ったのは、家庭用の除雪機で雪を片づけてから、さらにこんどはスコップで磨きかける、というものだった。まさしく常軌を逸した拒否反応ではないか。そんなに雪が嫌いなのだろうか。ゴミ扱いにしているのだと思う。いまの世は人をも、死ねば高熱で燃やしてゴミのように合理的に扱っている。

若いころ、ヒマラヤで遭難死した仲間の遺体を搬出し、麓で茶毘にしたことがあった。そのときの登山で、私自身も落雷に吹き飛ばされたり、十二指腸潰瘍で下血したりで、命だけはとりとめた。仲間の遺体を茶毘に付しながら、疲労困憊のあまり涙すら出なかったが、その思い出とともに、いまでも死は

崇高なものとして甦ってくる。私は何人もの仲間を山で失った。志なかばにして逝った仲間の死は忘れ難く、若い姿で記憶に焼きついている。

私の友人が話していたのだが、父の偏執的とも思える雪かきについて、あれは認知症の兆候ではないかと。事実、友人の父は、春に雪が消えて雪かきができなくなると暴れはじめ、やがて施設に入院した。その後、泣き出したりするようになり、それが治まると、こんどは食事がとれなくなり痩せ衰えて、もうだめではないかとのことである。

散歩中にしばしば見られるように友人の父も、どうでもいいような庭の雪まで公道に撒き散らし、金属製のスコップで騒音を立てながら打ち砕いていたという。

※ ※ ※

シバに食事を与えるとき、ご飯粒をスズメにも分けてやっている。スズメの群れは学習しているようで、その時刻になると、庭に植えられたブナの枝先で待機しながら啼き騒ぐ。

以前、群れに混じっている片足スズメを見つけて、この稿に写真を載せて紹介したが、こんどまた、群れの中に片足スズメを一羽見つけた。どうやら、奇形がたまに混じっている、ということが言えるのかもしれない。農薬禍、環境汚染による悪影響なのだろう。

シバと散歩して十余年。この間、口先だけの「自然との共生共存」とは裏腹に、現実の環境は地すべりの悪化の一途をたどっていることが実感される。二、三の事例を掲げると、まず、セミの啼く声が聞かれなくなった。もちろん、姿も見かけない。日常的に目を愉ませていたキジやカルガモ、オシドリも姿を消した。代わりに、さまざまな野生鳥獣の死骸や乗り捨てられた、盗難車と思われる自転車がしばしば目につく。



乗り捨てにされた自転車

今冬は一月に寒波が来るまで、雪はほとんど積もっていなかった。秋にカマキリやハチの巣が散歩道の脇に繁る、丈の低い草についていたのを見て、も

しかしたら雪が少ないかもしれないと思っていた。昔からの俗信に信憑性があるのかどうかはべつにして、たしかに雪は少なかった。一月も終わりのいま現在も少ない。



道端の草につくられたカマキリの巣とハチの巣

知人のカメラマンに誘われ、大晦日から元日にかけて郊外の神社めぐりをしたとき、除夜の鐘が聞こえてきて星空が広がっていたのには驚いた。農道を走っていたのだが、車を停めて除夜の鐘に聞き入り、神秘的な真冬の星空を仰ぐ。歌人の気分で一首詠む。

仰ぎみる冬の星座は冴え冴えと三世はるかに除夜の鐘鳴る

新年早々、降雪の少ない日が続き、夕焼け空が見られることもあった。雪国では、くだんの虹と同様、珍しい光景だった。

古希なれば夕焼け空の懐かしく独酌の味いよ身にしむ

こほど左様に、このところ短歌を詠むのが癖になった。誰に教えを受けたわけでもない。自己満足、へボでもかまわないから傍目憚らず詠みたいときは詠む。毎日ではないが、ときどき詠みはじめて一年が過ぎる。

真夜中にわがもの顔で除雪車は騒音ひびかせ眠りをこわす

総会出欠ハガキのご案内

次ページに総会・理事会のご案内を載せました。

○会員の方には委任状のハガキを同封しました。必要事項をご記入のうえ、3月25日までに投函ください。

○役員でなくても理事会・総会には出席できます。NPO法人ですので、総会の成立は委任状も含めて多数による参加が必要です。なお、一会員での出席が複数になる場合は、その旨を余白に記入して下さい。

○出席できない場合でも、事業計画など皆様のご意見やご提案をお待ちしておりますので、ハガキの余白、あるいはお手紙、メールなどにて、ご自由にお寄せください。懇親会出席の方は、各自お国自慢に一品と飲み物などをご準備ください。

○不明な点は、表記事務所までお問い合わせください。



昨年度総会時の様子

群馬県川場村交流会のお知らせ

会場 : ふじやまの湯 *群馬県利根郡川場村谷地 1412 ☎0278-52-3326

日時 : 10月7日(土)12:00 現地集合、8日(日)10:00 現地解散

内容 : 昼食、会員交流(愛犬自慢等)、縄文柴犬についての学習、夕食後親睦会

参加費 : 無料(宿泊の方は1泊2食付7,000円+税負担、7日昼食希望の方は実費負担、日帰りの方は600円で入浴できます)

川場村は群馬県北東部に位置し、日本百名山の武尊山南麓に広がる古い歴史と文化に支えられた自然豊かな農山村です。群馬県有数の豪雪地帯で、村内にはスキー場や5つの温泉が潤う「農業+観光」を主産業とする活気ある村です。

川場村には献上米にもなった「雪ほたか」や地酒・地ビール・手作りハムソーセージ・りんご・ぶどう等々旨いものがいっぱい!これら特産品は道の駅「田園プラザ川場」(5年連続関東 No.1)に勢揃い、色々な体験施設もあるので覗いてみてはいかがでしょうか。交流会の頃は丁度りんごの収穫時期、りんご狩りも楽しめます。

会場「ふじやまの湯」の御案内



道の先にはスキー場しかないという、人里離れた道の端にぽつんと建つ「ふじやまの湯」は湯量豊富なアルカリ性の自家温泉が自慢の民宿です。地の食材中心の料理は季節の味をお楽しみになれます。

周囲に人家がないため、犬がいくら吠えても大丈夫! たくさんのワンたちをお待ちしています。

(備品:ドライヤー・石鹸・ボディソープ・シャンプー・リンス・洗顔ソープ・歯磨きセット・カミソリ・くし・タオル・バスタオル・浴衣)

車ルート案内

- 関越自動車道沼田IC
- ↓左折しR120(日光尾瀬方面)へ
- ↓下久屋信号左折 県道64へ
- ↓谷地信号左折
- ↓県道263交差点右折
- 5km先 ふじやまの湯



お願い

*申込用紙を同封しましたので、参加・不参加にかかわらず、愛犬の様子等、必要事項をご記入の上、8月31日までに受付(黒梅)まで送付ください。愛犬の様子は会誌掲載に使わせていただくこともあります。

*駐車場、犬の係留場所があります。犬の係留管理は各自の責任でお願いします。

受付事務局: 黒梅明 ☎090-4689-8262 (申込書送付先住所は申込書上部に記載)

現地責任者: 栗原明美 ☎090-2934-2525